



未完の対校 '88 朝日レガッタ 6位

S.S. 岡田
5位

同志社大学ボート部にとってのシーズンの開幕戦、朝日レガッタ（第41回大会）は5月2日から5日までの4日間、琵琶湖漕艇場レークサイドコースに於いて開催された。同志社からは3年生7人を擁する対校エイト、各学年1人ずつが漕ぐ対校フォアの他、2年生中心のダブルスカル2艇とシングルスカル7艇という若いメンバーが出漕、最終日には応援団、チアリーダーが駆けつけるという例年以上の盛り上がりの中、それぞれのレースに挑んだ。

レース回想 対校エイト

【予選】

5月3日12時30分、レースは定刻に始まった。今年は遠征合宿をなくし、1月半ばから乗艇練習をしていたものの、試合2週間前の整調の交代、パドルの漕ぎ込み不足などの不安材料もあった。それでもレースに向けて徐々に調子は上向きになっていた。

予選の相手は滋大（経）、阪大。スタートで先行されたもののコンスタントで軽く抜き去り、一時は一艇身の差をつけたのだが、ラストスパートが思うままに伸びず、僅差で滋大（経）を抑え1位で準々決勝へ進んだ。

【準々決勝】

明けて4日。組み合わせ良く対戦相手は関大 Jr. 富士河口湖高。案に上げられるとはいえ次の準決勝のためにもいいレースをしよう——という思いが、オールメンのリラックスした表情の中にかがえる。結局レースは終止トップを走り、順当に準決勝へと駒を進めた。

【準決勝】

同日午後、準決勝。このレースの3位までが決勝に上げられる。同志社はタイム的には東レ、鹿大、九大に次いで4番めであった。スタートからコンスタント、東レが力強くリードを奪っていく。続いて鹿大、そして同志社。先行する鹿大に対して同志社は後半のスパートでその差を一本一本縮めていくのだが、猛追及ばず、キャンパス差で破れ3位での決勝進出となった。

【決勝】

5日。ついに決勝である。我が同志社は一戦ごとに調子を上げてきており、準決勝ではそれなりに満足にいくレースが出来ていた。そこには一種の手応えのようなものも感じられた。厳肅なムード漂う応援団の同志社チア一、さらに6番手がこのレースを最後に艇を降りるということもあって、クルーの士気はおのずと高まっていた。しかし、その意気込みが逆に固さとなってしまい、レースでは東レ、京大に置いていかれ、滋大（経）、岡大に全力で追いつがるものの、結果は1位と10秒差の6位、まさに完敗であった。

力不足を痛感した不本意なレースではあったが、これ



を貴重な体験として、夏に雪辱を、を合言葉に、日々の練習に励んでいる。

クルーのひとつこと

C 末瀬 結果としては6位であったが、まだ朝日の時点ではエイトとして自分達が理想とする形には至っていなかった。理想をめざし「ショウジン」あるのみ。

S 坂本 全くの完敗であり、段階を踏んだレベルの上昇が必要だと思う。要領も量もまだまだである。

7 石橋 情けないレースだった。気負い過ぎた。練習通りの漕ぎができなかった……反省は様々だが、納得のいく練習が全ての土台となるのを痛感した。

6 朝倉 残念ではあるがレース時点の実力からすればあれがベストであろう。勝てなかったのは完全に実力不足。残るみんなに期待したい。

5 内藤 6位に終わってしまったが、クルーとしての収穫もあり、これからの課題も得られた貴重な試合であった。

4 配川 決勝での負け方は忘れられない。もう二度とあの悔しさを味わわなくてもいいような練習をします。

3 西田利 勝ちぐせがないために決勝の雰囲気にもまれ、予選で勝った滋賀大にさえ歯が立たなかった自分達を腹立たしく思う。

2 島田 あらゆる面で自分の未熟さを痛感したレースだった。この結果を自分のものとして、肉体的にも精神的にも生かしていきたい。

B 西田智 準決勝をギリギリで勝ち上がったにもかかわらずガッツポーズ。何かおかしい。俺たちの目標は朝日優勝だったはずだ。低すぎる。まず精神面を再度鍛え直して、夏に向けて厳しい姿勢で取り組んでいかねばならない。

惜しくも決勝進出ならず!! 対校フォア

対校フォアは大会2週間前、他校のクルーが調整に入り始める大事な時期に、2番手が不慮の事故で快我をしまい、1回生の宮崎を乗せることとなった。彼は必死の努力を試みたが、春先から組んでいるこのクルーのリズムを掴みきれず、メンバー誰もに「もうだめか」という考えが浮かんでいた。レースまで1週間を切り、何とかリズムはあうようになったものの、フィニッシュに欠点の残る宮崎を乗せての朝日出漕となった。

予選はコンディションが悪く、波の高さを気にしながらのスタートであった。普段よりも2枚程度ピッチを落として水中を強く引くことを意識し、結果1位で予選を通過した。まさか1位で上がれるとは思ってもしなかった。準々決勝は精神的にかなりリラックスできて、強敵NTT関西には敗れたものの京大を抑えて2位となり準決勝へと駒を進めた。大会に入ってからのクルーのリズムは素晴らしく、今までの練習での不安を一気に吹き飛ばすかたちとなった。

そして準決勝。トヨタの前評判がいいだけに、我々とはにかく2位に入って決勝に進出する作戦に出た。通過タイムのそう変わらない大府大、立命館とは競り合いが予想され、スタートで出遅れた我々は最初最下位であったが、大会に入って自信を深めているコンスタントで勝負を賭け、600mでは2位、トヨタも目と鼻の先であった。トヨタに逃げられ、激しい2位争いは3校譲らずほとんど同時にゴールインした。結果は僅か100分の数秒差で大府大に敗れての3位であった。

あと一枚ピッチが上がってれば……考え出すとキリがないが、大会に入って本調子にもってることが出来たのはオールメン満足していると思う。競って敗れた悔しさだけは忘れずに、という思いを胸に我々の大会は幕を閉じた。



シングルスカル 5位

岡田太一郎

“勝てるかもしれない”——坂田（インテック）が練習している姿を見た時、僕はそう思った。結果とし坂田さんに10秒もの差で負けに終わった。決勝に応援団が駆けつけてくれ、気合も入ったが少々上がり気味でレースに臨んだ。スタートから彼らに先にいられ、後を追う展開となった。（コンスタントに自信）。スタートで出られても何とも思わなかった。が、500mになっても全く差が縮まっていかなかった。あせってピッチを上げた。自分本位の漕ぎでなくなり体が重くなる……

反省すべき点が2つ。まずスタートダッシュのこと。今までコンスタントで抜けると思いダッシュをかけなかった。かけても全力ではなく、少々出遅れても長いコンスタントで勝てばいいという気持ちであった。それは昨年のダブルスカルの時と同じであった。しかし朝日の決勝において、そんなものは通用するはずがなかった。相手は一流の選手であるのに、高校時代の相手と混同していたに違いない。コンスタントが強いのといっても、彼らに比べたら同じか少し劣る位だ。そしてもうひとつは予選から決勝にかけてスタミナを残せるというような楽な気持ちでレースに臨んでいたこと。決勝戦になって急に体が重くなったのはどういうことだろう？ 昨年の力漕にも体力強化という問題点を掲げた。今回も昨年と同じ体力のなさが残った。ウエイトを付けるのが今の僕にとって一番大切で切実な問題である。

インカレ（その1）まで1週間。昨年、そして今回の力漕には書くことのできなかった勝利の喜びを載せられる様、山下と共に頑張ります。

'88 小艇選手権 結果報告

全日本選手権
シングルスカル 岡田 準決勝敗退
全日本選手権
シングルスカル 山下 予選敗退
(6月10～12日 於 戸田オリンピックコース)

小艇奮戦記

～基礎作りのスカル種目出漕～

実感!! ダブルスカル

5月3日12時50分。やや波はあるものの、定刻通りのスタートであった。緊張は高まるばかりであったが、気迫十分、「ROW!」の合図で力を込めた。……レース前日、最後の調整練習を終えて船台に戻った時の二人は意気盛んであった。「予戦突破も夢ではない!」レースが近づくと、それまでの試行錯誤の甲斐あって二人の漕ぎが当初とは見違える程安定してきていたのである。また、春休み中には一日フォー・モーションをこなし、乗艇時間が豊富にとれたことも強力な心の支えとなっており、不安はなかった。……スタート・ダッシュは好調。一瞬、抜き出たかに思えた。が、そこからコンスタントに入る際にオールを波にとられ、バランスを崩して進路がゆがんでしまった。たて直す間に艇速が落ち、ぐんぐん離された。なんとか追いつけようと思死に声をかけ合って力むほど、漕ぎが乱れていった。トップグループとは大きく水をあげられてのゴール。惨敗であった。ゴールしてしばらく 茫然と浮いたまま結果発表を待ったが、その間、脚ではなく腕だけがひどく疲れていた。いかに余計な部分に力が入っていたかの証拠である。発表された結果は、我がクルーのベストタイムであったが、すべてを出し切れなかったことへの歯がゆい思いが残った。

自分なりに精一杯練習し、精一杯力んで敗れた。経験の浅さと技術不足とをカバーし切れなかった。しかし、約三ヶ月間、ダブルスカルを通して多くのことを学び、実行することができた。実に貴重な経験ができたと思う。今後、この経験を生かし、体力と共に技術・精神力を更に充実させ、頂点を目指したい。

の中では一番予選のタイムが悪かったので、何とか最下位は免れようと思ってレースに挑んだ。2回目のレースだけあって初日よりかなり落ちついていて、スタートはまずまず、終止3位の選手が視界に入っていた。彼を抜いて3位に上がってやろうと思ったのだが、800mあたりであせりが出てフィニッシュでオールが抜けず、かなり艇速を落としてしまって結局4位、準決勝に上がることはできなかった。しかしタイムは普段の練習のときよりもいいものが出せたので、個人的には満足のいくレースであった。

短期間ではあったが、スカルを漕ぐことでかなり勉強になったのではないと思う。ビデオによる漕技研究、リギング等、ボートに関して相当に頭を使って練習してきた。今後はこの経験を一本オールに生かして、強い同志社ボート部を築いていきたいと思う。



土台作りのシングルスカル

二回生 三上和彦

今年より新しい試みとして原則的に二回生までは基礎作りということで、二回生のほとんどは、春合宿からスカル、ダブルスカルに乗ることになった。とりあえず目標は朝日レガッタまでにスカルを乗りこなし、同時に体力増強を図ることであった。しかし2ヶ月半でレースピッチまで上げるのは困難を極め、朝日に万全の体勢で臨むことはできなかった。

初日の予選は午後に組まれ、コースコンディションは最悪であった。最初のレースということで冷静にレースを進めることができず、レーンから外れたりブイにオールをぶつけたり散々であったが、上位四艇までが準々決勝に上がれるという余裕から3位以下にかなりの差をつけて2位で予選を通過することができた。

翌日の準々決勝は昨日とは違って変わって微順風で波の全くない絶好のコンディションとなった。組み合わせ

第41回 朝日レガッタ 大会結果

S.E.	同志社大(末瀬, 坂本, 石橋, 朝倉, 内藤, 配川, 西田利, 島田, 西田智)	6位
S.F.	同志社大(津嶋, 石田, 小原, 宮崎, 前田)	準決勝敗退
D.S.	同志社大A(喜多, 榊原), 同志社大B(田中, 乾)	予選敗退
S.S.	岡田	5位
	山下	準決勝敗退
	三上, 杉山, 大竹, 島山	準々決勝敗退
	佐藤	予選敗退

新 入 部 員 紹 介

1. 米山 尚吾 経済 洛南高校
よく練習に励み、よく食べ、よく寝、よく勉強し、よく歯を磨くことをモットーとします。
2. 岡本 竜人 法 三国丘高
始めは楽勝だった練習も今では……「モーション十分前」のコールにおののく今日この頃です。
3. 小林 重之 経済 洛南高校
毎日、練習がしんどくてその上眠くてたまりません。けど青春してるって感じです。
4. 三村 秀之 商 富山高校
四時半の起床、十時の消灯はたいへんつらい。Butがんばります。
5. 嶋本 貴夫 工・機 同志社高校
一つの事をやり通すというのは難しい事ではあるけれど、もし出来たら素晴らしい事だと思います。
6. 宮脇 信行 商 川西緑台高校
今たいへんしんどいです。これから四年間こういうのがつづくとぞっとする今日このごろです。
7. 功力 英俊 文・産 岡谷南高校
数百時間、数千時間もの練習時間が、たった六分のレースに集束される。六分間のレースはあまりにも長く、そして短い。
8. 吉田 武史 経済 膳所高校
日頃、何気なく過ごしている6分間、その6分間、230本のバドルの中に僕達ドラマがある。
9. 勝本 肇 商 桃山学院高校
身長のない分は体重で補いたいと思います。一所懸命がんばります。
10. 高羽 浩司 商 名古屋西高校
身長のない分は頭脳で補いたいと思います。一所懸命がんばります。
11. 谷 昌二郎 商 川西緑台高校
今一番したいこと、それはぐっすり寝ることです。今一番したくないこと、それは南郷を走ることです。

- とにかくがんばります。
12. 大友彰一郎 文・社 田川高校
毎日とても眠くて悩んでいます。そして勉強も全然わからず困っています。とにかくボートがんばります。
 13. 小田切 拓 文・教 若溪高校
同大ボート部に入って3ヶ月近くたった。これから先は長い。この調子でがんばろうと思う。
 14. 竹下 岳 文・新 呉三津田高校
走ることなら誰にも負けません。勉強だって誰にも負けません。あとはボートだけです。BE PERFECT !!
 15. 近藤 泰裕 文・社
低気圧気味で朝モーション中は半分眠っている僕ですが、とにかく頑張りたいと思っています。
 16. 吉田 拓生 経済 熊本商大附属高校
いつも練習中は真面目です。だからなまけ者を見るとむかつきます。
 17. 下田 亨 経済 桜井高校
高校の時はテニスをやっていました。ボートに関しては素人なので、がんばっていきたくと思います。
 18. 宮崎 寿春 文・史 宇和島東高校
自分のパワー、スピード、魂、そして夢を一本のオールにたくしてこれからずっと生きていこう。
 19. 加藤 康 経済 旭丘高校
ボートが自分に向いているかどうかわかりませんが、まずは先輩の指示に従って練習しようと思います。
 20. 小林 俊樹 商 清風高校
ボートも勉強もどちらもがんばりたいと思いますが、今はボートです。
 21. 山口賢太郎 工・子 豊中高校
いよいよこれからが夏本番、新人戦に向けて、さらに気をひきしめて練習に励もうと思います。

以上21名、元気にがんばっています。

今後の試合日程

○関西選手権大会	7/23, 24	琵琶湖
○関関同立レガッタ	7/28	同上
○全日本大学選手権大会	} 8/25~28	戸 田
全日本選手権大会		
オックスフォード盾レガッタ		
○京都国体	9月上旬	舞 鶴

編 集 後 記

年々発行が遅れる朝日レガッタ特集号。本当に申し訳ございません。来年こそは早く作らせます。作ります。

部 報 力 漕

1988年7月11日発行

発行 同志社大学ボート部

〒520-21 大津市瀬田3-2-3 0

TEL 0775-45-0702

〈編集委員〉

朝倉 伸二、島田 恭典、喜多 隆博
津嶋 泰、岡田太一郎、三上 和彦